

2015大分トリニータ サポーターカンファレンス 議事録1

- 日時 2015年9月6日(日) 15:30~17:00
 - 会場 ホルトホール大分 3階 大会議場
 - 参加者 株式会社大分フットボールクラブ 代表取締役 青野浩志
大分トリニータ 監督 柳田伸明
株式会社大分フットボールクラブ 強化・育成部長代理 西山哲平
サポーター出席者 125名
-

司会 本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

本日の流れといたしまして、事前に皆さまより寄せられたご質問を中心にご説明させていただき、その後、質疑応答に入らせていただきます。なお、クラブやチームの人事に関する事項、選手契約、個別取引に関する事項など、経営上の守秘義務が課せられている事項についてのご質問にはお答えできない場合がございますのでご了承ください。

それでは、お待たせいたしました。サポーターカンファレンスを開会いたします。初めに青野よりご挨拶をさせていただきます。

青野 皆さんこんにちは。

会場確保の関係で日曜日の夕方に開催となりましたが、その中でもこのように多数の方にお集まりいただき本当にありがとうございます。

今季、非常に不甲斐ない成績でサポーターの皆さまをはじめ、多くの県民の皆さまに悔しい思いをさせてしまい、またご心配をお掛けしている事に対してクラブの責任者として、まずお詫び申し上げたいと思います。

さて、8月23日のセレッソ大阪戦後に、サポーターの皆さんから「あと12試合しかない。この12試合を何が何でも残留するためにチーム・フロント・サポーターが一致団結して闘わなければいけない。そのためにも、天皇杯で約3週間空くこの期間にサポーターカンファレンスを開催してもらいたい」とご意見をいただきました。そうしたサポーターのお気持ちは私も痛いほど分かりました。今の危機的状況を脱するためにも、また、残り12試合をチーム・フロント・サポーターが一致団結して一つになるためにも、開催すべきだという思いで、本日開催することにしました。

(事前質問では) チーム成績を中心に多くのご意見をいただきました。正直申し上げまして、耳の痛い話ばかりでした。そうしたご意見をしっかりと胸に刻み、そして受け止め、今日のご回答していきたいと思っております。私もできる限り本音で申し上げたいと思っています。それが、今日お越しいただいた皆さま、あるいは都合で来られていないサポーターの皆さまの共通の理解、そして残り12試合残留に向けて、一致団結して戦うことにつながるものと確信しております。限られた時間となりますので、私のご挨拶は簡単にして、回答、質疑へ時間を割いて行きたいと思っております。本日の会議が建設的かつ有意義なものになりますよう、最後をお願いをしてご挨拶に代えさせていただきます。

本日はご出席いただき、本当にありがとうございます。

司会 それでは早速ですが、皆さまより事前にいただいたご質問の中で、多くのご質問が寄せられたシーズン当初の狙い、現状認識、J 2 残留に向けた残り 12 試合の戦い方などチームに関するご質問について、柳田監督よりご説明させていただきます。

柳田 改めまして、皆さまこんにちは。お忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。こちらにいらっしゃる方々は、トリニータを長く、心から応援してくださる方々であり、チームが厳しい状況の時には様々（な形で）体を張ってチームを支えていただいた方だと思っています。皆さまの今シーズンのチームに対する期待は大きかったと思いますが、期待を裏切る形になっている事につきまして、深くお詫びを申し上げたいと思います。私からはチームに対する様々な質問に対する回答をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

 シーズン当初の目標に「優勝」また「J 1 昇格」を掲げさせていただきました。（それに付随し）昨シーズンの終了後の選手の放出について多くの質問が寄せられていました。まず、そのことについて回答させていただきます。

 放出選手について、特に皆さんからの支持が多かった林選手（現・F C 東京）、末吉選手（現・アビスパ福岡）を残留させることが出来なかった事は、今季の目標に対する編成を非常に難しくする要因となってしまいました。彼らに対しては、大分残留のためにクラブとして私も社長も最大限、自分たちが出来ることを本人に対して伝え、努力をしてきました。しかしながら、移籍元クラブの事情や本人の意思や、様々な要因が重なった中で残留をさせることが出来なかったのは事実であります。

 それから、「監督と強化部の連携がなされていないのではないか」というご質問が多かったので、ここに関して率直なお話をさせていただきます。私が強化・育成部長という立場で今年で 5 年目でしたが、（強化・育成部長就任後）始めに田坂前監督を招聘してそこから 4 年以上の付き合いになりました。その中で、他のクラブ以上にしっかりとコミュニケーションを取ってきたと私も思っていますし、田坂前監督も思っていたいただいていたと思います。選手の移籍についても、この 4 年間、本当に監督や現場の方々を含め話し合い、意見交換をしながら決めてきました。

 具体的な補強に関して、特に外国人選手について様々なご意見をいただきました。（今季当初の編成）テーマとして前線にパワーのある選手を補強したいという思いがありましたが、その点をまずはお話させていただきます。

 昨年末にアルメイダ選手、フェリペ選手、エヴァンドロ選手の 3 名を練習参加させ、見極めたうえで獲得しましたが、結果的にはアルメイダ選手、フェリペ選手が契約解除ということになりました。アルメイダ選手については、技術的などところは不足していたと私たちも認識していましたが、彼のスピードやパワーというところに魅力を感じ、また、日本のサッカーにフィットすれば力を発揮するという期待もあり獲得しました。しかし、日本のサッカーや生活スタイルに馴染めず、規律的な部分や問題行動を起こす事もあり、内面的な所を見抜けなかったこちらの責任でもありますが、双方合意の上で契約解除ということになりました。フェリペ選手に関しては、練習参加した時に技術やサッカーセンスを見てその将来性に賭けてみたいという期待がありました。はじめは外国人枠の関係もあり、レンタルで外に出して出場機会を得られるところで慣れさせてからという思いがありました。そんな中でアルメイダ選手が移籍したこともあり、フェリペ選手を戻す事になりました。トレーニングに合流しましたが、度重なる怪我や日本のサッカーに馴染めないというストレス、家族と離れて日本に来ていたので実は少しホー

ムシクにかかっていたということもありました。彼に関しても、結果的には双方合意の上で契約解除することになりました。

クラブとしては、これまでは（金額的に）外国人に手を出せなかったのですが、新しいチャレンジをしてきたつもりではあります。2人については東ティモールの国籍を所有し、日本のサッカーにフィットすればアジア枠でプレーできるというメリットがありました。また、フェリペ選手は、具体的な話はありませんが、正直に言うと日本のC契約の選手よりも低い年俵で契約していました。ただ、残念ながら私たちが考えていた思惑通りにいかなかったのが現実です。

エヴァンドロ選手については、プレシーズンではある程度自信を持ってプレーしていた時期もあったのですが、なかなか結果が伴わない中で出場機会を減らしてきてしまい、怪我也重なったことでレギュラーを取り切れなかったと。しかし、今少し怪我をしてしまっているんですけども、彼の潜在的なものには期待をしています。具体的に言えば、リーグ戦の長崎戦の途中から出て、ゴール前のパワーだったり、相手の嫌なプレーをさせたりとか、要はスーパーサブ的な働きを求めながら彼の良さを今後生かしていきたいと考えています。

外国人がフィットしない中で、途中加入になりましたが永井選手を獲得しました。結果的に怪我で戦列を離れてしまったんですけども、それまでは素晴らしい活躍をしてくれました。チームにも馴染み、得点を量産しそうな状況の中で、彼の離脱はチームにとって非常に大きな痛手となってしまいました。

新加入としまして、三平に関しては皆さんご存知の通りなので言う必要はないと思いますが、彼も今コンスタントに出場し結果を出してきています。何と言っても本当に厳しい戦いの中で、常に先頭で闘う姿勢を見せてくれる三平の姿はチームの中でも不可欠な存在になっています。

中盤の補強につきましては、末吉を残留させられなかったのは大きな痛手となったのは事実です。昨年の途中から加入したダニエルはボランチやセンターバックとして期待しており、他にも昨年の終盤で大成したジョンヒョンだったり、松本昌也など、違うタイプの選手にプラスして兵働のようにゲームをコントロールできるような選手がいれば（今季を）戦っていけるという認識でした。ただし、ダニエルが昨年の加入当初ほどのパフォーマンスを発揮できなかったということは誤算だったと考えています。

最終ラインの補強については、新卒の鈴木選手はほぼフル出場しており、私たちとしては高く評価しています。安定したパフォーマンスを見せておりますし、新卒とは思えないような落ち着きあるプレーをしてくれています。ダニエルは昨日はセンターバックとして先発しましたが、今コンディションが非常に良く、今後の戦いの中核として期待しています。あとは、若狭もセンターバックとしてずっと出場し、昨日は左サイドバックとして出場しましたが、彼に関してはセンターバックやサイドバックとして幅広い活躍を期待しています。

サイドバックでは、山口は元々はセンターバックの選手です。ただし、特に私が監督を務めさせていただいてからは守備的なサイドバックとして右サイドバックに出場してもらっています。彼に関しては、安定した守備力とチームを鼓舞するリーダースhipを発揮してくれていますし、非常に欠かせない存在になっています。彼の特徴からすると、攻撃のところでは幅広く出来ない部分もあるかもしれませんが、彼がサイドバックをやった時のプレーについては、一定の評価をさせていただいています。その他にも既存の西、松本怜、安川、大卒の福森や移籍組の石川を加えた布陣で、攻撃的にも守備的にも戦える陣容を（シーズン当初の段階では）ある程度は揃えられたと考えております。

次に、現状の認識についてお話をさせていただきたいと思います。開幕から16節までは2勝5分9敗14得点22失点という成績でした。（16節までを）分析して、まず一つ言えることは、スタイル

の浸透がしきれなかったというところはあるのかなど。昨年の終盤に見せたアグレッシブなスタイルを今年も継続させて、目標を達成していこうということが今シーズンのテーマでした。そのテーマを基に、戦いを進めたかったのですが、なかなか思うような結果が得られませんでした。

開幕当初、3-4-3のシステムでアグレッシブにボールを奪いに行き、縦に早い攻撃をするというスタイルを狙いとして掲げましたが、開幕戦の讃岐戦では残念ながらそのスタイルを表現できず、8節からシステムを変更しましたが（その後も）安定した戦いができませんでした。メンバーの選考についても、ほとんど毎試合選手が変わるという状況がありました。試合を重ねるごとに課題を克服して成長することや、スタイルの浸透やチームの成熟度に関してもなかなか思うようにはいかなかったと考えています。

特に失点が多かった守備については様々なご指摘もありましたが、ゴール前の守備意識や球際のところ、切り替えの早さや相手より走るなど、サッカーの本質的な部分の改善がなかなかできなかった事も結果が出せなかった一因と言えます。

もうひとつは、先ほどもお話ししましたが、補強した選手が力を発揮できなかったところではないかと思えます。怪我から回復した三平や、途中から加入した永井に関しては力を発揮してチームのために貢献してくれました。岡本やエヴァンドロについては、出場機会は与えられてはいたもののチームに貢献できなかった。その他、加入した選手の中でばらつきはありますが、兵働や鈴木などはコンスタントに出場し活躍をしてくれています。

3番目に、田坂監督には4年数ヶ月と長く指揮を取っていただいた中で、皆さんも監督の事はご存知の通り、非常にカリスマ性もあり強いリーダーシップを発揮される方でした。

サッカーというチームスポーツでは、選手たちが自ら問題を解決して行動していくような、非常に難しい状況に立たされた時に自分たちから自発的にアクションを起こしたりモチベーションを上げていたりとか、そういう能力が大事だと思っていますが、その点が個人としてもチームとしても少し薄れてきてしまったという印象はありました。特に、試合が劣勢に立たされた時の粘り強さという点でも、グループとしてなかなか力を発揮できなくなっていたというのは事実かと思っています。

立場が変わり、17節から監督をさせていただく中で、自分の想いとしてはサッカーの本質的な所を追及していきたいと思っていました。過去に2008年にJ1で結果が出てきたときのチームのスタイルのように、皆さんの記憶にも刻み込まれていると思いますが、切り替えの早さであったり、走ること、球際の強さなど戦うための本質的な部分を出来る選手を使っていきたい。後は失点が多かったので、まず良い守備をしっかりするところから攻撃につなげるサッカーを目指して戦ってきました。14試合で3勝6分5敗14得点14失点ですが、直近のリーグ戦で3連敗していて、本当に皆さんの期待を裏切る形で正直説得力に欠けるとしています。ただ、就任してからの10試合で3勝5分2敗と、それまでに関しては複数失点も少なくなってきた負けにくい粘り強さは少しだけかもしれませんが出せてきていると感じています。

自分が最も反省すべきところは采配のところだと思います。8月の4試合で1分3敗と、皆さんに対して申し訳ない結果となってしまいました。そこに関してははっきり言って自分の力不足です。経験がないことを理由には出来ないと思っていますが、自分の力不足だと思っています。3敗の内、特に2試合については先制もし、選手は本当に良く戦ってくれました。アウェイの京都戦は直接対決でもありましたし、非常に難しい試合ではありましたが、選手たちは立ち上がりからよく頑張ってくれたと思います。その中で、先制した後に最終的に逆転されてしまったと。その結果に対しては、私の采配によるところが大きいと思っています。そういうことに関しては選手にも伝えています。7月は3勝2分1敗で乗り切

ったのですが、8月は勝てなかった、特に8月の戦いは本当に真摯に受け止めておりますし、次の熊本戦に向けて、必ず勝つために指揮を執っていきたいと思っております。

今後の取り組みとして、残留に向けた12試合の戦いについてお話いたします。具体的な勝点について、現在の勝点が26点です。今年は（J2リーグの）下位グループが得点を積み重ねてきているという現状、そして昨年のデータから20位の東京ヴェルディの勝点を考慮すると、最終的には（残り12試合で）勝点18を取らないと残留できないと。これは非常に厳しい設定ではありますが、そこに向けて選手、スタッフとも共有していますし、死に物狂いで闘っていきます。勝点18を取れば残留はほぼ確実だろうと思っています。18を取ったら勝点44、勝敗で考えれば12試合を5勝3分け。簡単じゃない事は分かっていますが、しっかり共有し、まずは熊本戦をしっかり取れるように戦っていきます。

今後の選手起用については、就任してから競争を生みつつも、まずはある程度選手を固定して、特に守備面でチームとしての成熟度を高める事に取り組んでいました。また、試合の前後に選手同士のミーティングを行い、何が良くて何が悪かったから結果がこうなったということを選手同士が共有し、次の試合に生かしていけるようになってきたことについては、選手同士の連携の向上であったり、ピッチ内で劣勢に立たされた時の解決する能力、コミュニケーション能力だったり、そういうところにつながってきていると手応えを感じております。選手全員に求めなければいけません、今後重要になってくるのは、チームの現状をより理解し、アグレッシブに死に物狂いで闘っていける選手を戦術の中で起用していくということです。

天皇杯の2試合では、（リーグ戦の）試合に出ていなかったメンバーを試す事ができましたし、今後のリーグ戦で戦っていくための武器も増やす事ができたと思っております。先ほどと重複しますが、ダニエルのコンディションが上がってきたこと、より攻撃的に行くというオプションとして、右サイドバックに西や右サイドの怜も含めて手応えを感じております。残り12試合、とにかく厳しい戦いとなりますし、目標とする勝点を取るために、様々考慮しながら（選手を）選考していきます。組み合わせを重視したいと思っておりますし、相手チームのスタイルも様々なので対戦相手によって構成は若干変えることはあるかと思っておりますが、1試合1試合戦っていきたいと思っております。

最後に、ご質問でもあったので改めてお伝えさせていただきます。自分の目指したいサッカースタイルとしましては、守備に関しては、とにかくシンプルにコンパクトに戦うということと、球際の強さやセカンドボールに対する反応の早い選手をセレクトして戦っていきたくて考えています。もっともっと（選手に）要求しなければいけないんですけども、特にゴール前で体を張り続ける粘り強い守備をしていきます。あとは、セットプレーでの失点が最近増えています。セレッソ戦で3点取られましたが、ここに関しては私の準備不足もありますし、しっかりと対応していきたくて考えております。攻撃に関しては、（狙いが）出来ている試合もあれば、出来ていない試合もあります。試合の戦い方は相手によって多少狙いは変わりますが、例えばヴェルディ戦のように数名が連動した崩しからチャンスを作ったり、群馬戦のようにクロスを多く上げその中で（ペナルティ）エリアに人数をかけていく、そういった迫力あるシーンを多く作りたくて考えています。昨日の長崎戦を見ていただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、相手の背後をシンプルに突いて、素早いサポートからゴール前に攻め込むような機動力のあるサッカーをしていきたくて思います。まずは熊本戦に全てを懸けて取りに行くと。今朝の練習でも選手・スタッフともう一回そこを確認し合ってみんなと別れましたが、選手・スタッフみんなと心を合わせて、とにかく熊本戦に勝つことで先ほどの目標に到達に近づきます。そこだけをしっかり見

据えて全力で闘っていきたいと思いますので、応援をよろしくお願いします。私からは以上です。

司会 続きまして、夏の第2登録期間での移籍と補強について、西山よりご説明させていただきます。

西山 こんにちは。今シーズンは私自身、前半はコーチとして、6月2日以降は強化部長代理として活動を行ってきました。

今シーズンの成績に関しては、皆さまには非常に申し訳なく思っています。深くお詫びを申し上げたいと思います。私からは第2登録ウィンドー、7月10日から8月7日の選手の移籍・加入についてお伝えしたいと思います。

まず、セレッソ大阪からお借りしていました永井選手のレンタル延長に関してですが、クラブは最大限慰留に努め、選手本人も残留を強く希望してくれていたのですが、セレッソ大阪の意向でレンタル期間の満了をもって戻さざるを得ませんでした。

次に、選手の放出についてですが、田坂体制より出場機会を得ていなかった選手、あるいは柳田体制でより機動力が求められるサッカーをしていく中で戦術にフィットできず出場機会を失っていた選手がいましたが、そのような選手に他のクラブからオファーがありました。その時に選手本人と協議しましたが、選手は出場機会のために移籍を求めました。オファーを出してきたチームの順位が近いということもありましたので、選手の気持ちの部分や選手の出場状況、チームの戦力等を当然クラブとして深く考えましたが、選手本人の気持ちは出場機会を得たいという事で既にチームの外へ気持ちが向いていました。そういったメンタルの選手がチームにいることが、チームとして、また今後の戦いの上で本当にプラスになるのか、もしかしたらマイナスになるかもしれないという判断から止む無く放出することを決断しました。こうした経緯があり、決してクラブの都合で選手を放出したということではないとご理解いただきたいと思います。

次に補強に関して、柳田体制になり陣形をコンパクトにして前線から積極的にボールを奪いに行くアグレッシブなサッカーが表現できるようになり、今後の復調の兆しが見えたと考えました。しかし一方では追加点が奪えず勝ちきれない試合が続き、60分過ぎに前線の選手が消耗し運動量が落ちると共にチームの勢いも落ち、押し込まれて失点する試合があったのも事実でした。ですので、前線の選手の交代がカギになると考え、前線の選手を1枚補強したいと考えてました。その1枚というのが荒田選手になります。前線の選手の補強についてご質問にもありましたが、名前は言えませんが過去にトリニータに在籍していた選手にも打診はしました。しかし、本人の意思、また所属元クラブの意向によりそれは叶う事はできませんでしたので、あわせてご報告させていただきたいと思います。

次に守備に関して、失点する試合が多かったですが、DFラインのコントロールであったり、(陣形を)コンパクトに保つことなど出来ていた部分も多かったと判断しました。なおかつ、レギュラー選手にプラスして、サブにレギュラークラスの選手もいたという事で、積極的にDFラインの選手を補強しようとは考えませんでした。みなさんから質問が多かった、サイドバックに関しては夏のウィンドー期間では山口が務めることが多かったのですが、山口に関しては過去ベルマーレでサイドバックの経験もあります。また、センターバックタイプの選手がサイドバックをやることのメリットも少なくはないと思います。対人の強さ、特にJ2ではロングボール主体のチームも多いので高さによって跳ね返す事、そういったメリットもあると思います。また、ラインコントロールに関しても、元々センターでやっていた選手ということで、周囲の選手と連携してコントロールができるというメリットもあると思ってい

ます。また、昨日の天皇杯の試合で西がサイドバックでプレーしたように、西もサイドバック候補の一人という考えもありましたので、そう言った理由からサイドバックの選手の補強はしませんでした。

最後になりますが補強全般の考えですが、第23節のアウェイのヴェルディ戦が象徴していると思いますが、チームの一体感を強く感じていました。確かにレベルの高い選手に幅広く打診はしましたが、その獲得が叶わなかった時に、既存の選手を上回れない選手、もしくは同等の選手、中途半端な選手を持ってくるという事は避けようと考えていましたので、本当に慎重に補強を進めていました。夏のウィンドーに関しては主にこういった経緯で選手の出し入れをさせていただきました。これが私からの報告になります。

司会 最後は監督人事、クラブについてなど、出来るだけみなさまから寄せられたご質問について、青野よりご説明させていただきます。

青野 5点ほどご説明させていただきます。

まず監督人事の経緯について、何人かの方からご質問をいただきました。これについては時間の関係もありますので、詳しい経緯については7月3日にホームページに掲載しておりますし、あるいはその時の報道の通りでございます。それ以上でもそれ以下でもありません。重複しますので、この場ではあえて申し上げないつもりでございます。とは言いつつも、交渉事とはいえ、結果として新監督を招聘できなかったという事実はあります。そこはしっかり受け止めまして、来季の監督交渉に生かしていきたいと思っております。

続きまして、特に多かったのが、今回サポーターカンファレンスを開催した理由と、これまで開催しなかった理由についてです。開催した経緯は先ほど冒頭のご挨拶で申し上げた通りですが、開催しなかった理由でございます。

私が責任者になった初年度2010年に、サポーターの皆さんに当時の特に財務面について再建計画等もございましたのでご理解してもらいたいと、リーグ中断期間に開催いたしました。正直言って、その時の失望と徒労感を今でも覚えています。的を得た質問もございましたし、厳しいご指摘もありました。でもその逆も多くありました。あのときの状況、もっと言えば前年の経営危機の影響が大きく残り、資金繰りが非常に厳しい中で、実は私個人の実印を押しながら連帯保証人になって何とかクラブを回しているという状態の中で、「A選手を取れ」「B選手はどうだ」という様なご意見が多数ございました。私個人的には、もっとあの状況の中で大分トリニータをどうやっていくのかという建設的で前向きな意見を期待していたにもかかわらず、正直言って強いチームが一番望ましいですけども、クラブの存続・状況は二の次にその事を前面にご質問を受けたということが頭に残っております。その時に感じたことは、完全復活するまでは（サポーターカンファレンスを）開催しても皆さんのご希望とクラブが出来ることに非常に乖離があると感じました。そのため、まずは債務超過の解消を含めた完全復活をしっかりやっていこうと考えました。

とは言いつつも、やはり皆さま方サポーターとクラブが一体になる必要があるということで、情報公開はしっかりとやってきたつもりでございます。例えば財務面では、10月をベースにした決算見込みを公表しています。こういったことをやっているクラブは他にありません。また、決算がまとまった4月の段階で会見をし、そしてホームページで（決算書）を公開していますけども、一覧表にしてははっきり分かるようにしているのは当クラブだけだろうと思っています。チーム面では新体制の会見等の際に、

強化部長、監督等がシーズンの戦い方などご報告していますし、その他に大きな動きの時には記者会見を開いてメディアさんを通じて皆さま方にお伝えしていくという事でございます。そうした中で、今回は先ほど言いましたように、チームが非常に苦しい中で開催のご希望がございましたし、私もそう思いましたので開催したところでございます。

情報という関連で申し上げますと、「選手の怪我の情報が出ない」と。これはクラブの不振につながるのではないかと、というご指摘がございました。私もその通りだと思います。田坂前監督の時には対戦相手との関係上、そういう事があったのも事実であります。一方で、公表していない怪我をしている選手がクラブハウスから出てきた時に、サポーターの皆さんに対して（怪我の状況を伝えられず）非常に辛い対応をしていると私も目撃しておりましたので、今シーズンからは3、4週間以上の怪我については公表するようにいたしました。ただし、正式に診断が出るのに3、4日かかってしまうので、2週間程度の怪我になると（怪我を発表した）次の日には別メニューで選手が走っていて、あと1週間もすれば全体合流できるという状況の時にはあえて公表しておりません。もうひとつ、「トレーニングマッチの時にスコアと得点しか公表していない、それは情報規制じゃないか」というご指摘もございました。正直申しまして田坂さんの時のやり方を現時点で踏襲していますので、ここのところは特に県外のサポーターの皆さんにしてみれば全然見えないという事がございますので、柳田とも相談をして考えてみたいと思います。

3点目に、「クラブとして中・長期的にどんなビジョンで戦っていくのか運営していくのか」という事でございます。昨年20周年を迎え、債務超過もそれなりに解消できた年でございました。ということで、企業理念・チームビジョンをはじめて決めました。

企業理念は「サッカーを通じて大分の活力に貢献する」ということで、ホームページ上でも詳細を記載しておりますのでご覧いただきたいと思います。チームビジョンは「『育てる』をコンセプトに育成型クラブの代表的な存在になる」ということでございます。この想いの背景には、今年でJクラブは37都道府県52クラブになり、はっきり申し上げまして、1県で1クラブ（以上）を支えるという状況であります。それぞれのホームタウンの経済力で1クラブを支えるという状況になってきております。そういった事を考えた時に、我々がこれからJ1を目指していく中で、大きなスポンサーさんが付かない限り予算規模の飛躍的な伸びはないだろうと。低予算でもJ1で戦えるようなチーム作りは何だろうと、色んなところで議論をした際に、将来的に生きる道は育成しかないと考えました。幸いと言ったら語弊がありますが、4年前の経営危機の真っ最中でお金がない時に、再建期間中を逆手にとってアカデミー・特にユース（U-18）の強化に努めていこうということにしました。その結果、プリンスリーグ九州では2連覇し、今年からプレミア昇格。上位で戦ってくれています。トップでも昨日得点をした為田を筆頭に、ユース出身、あるいは大分県出身の選手が9名まで増えてきております。数年後にはメンバーの半分以上はユース出身あるいは大分県出身の選手で占めることが、本当の意味での「おらが町」のチームにつながって行くだろうと。それが大分県で1チームを支えることにつながって行くだろうという思いがありまして、4年前の経営危機の時から地道ではございますが、そういう仕掛けをやってきたことがようやく少しずつ花開いてきつつあると。

しかし、アカデミー選手がトップチームを構成してもそれだけでは戦っていけないだろうから、（ポジションによる）ポイントやベテランの補強をし、チームを融合させて上手く戦っていくことが地方クラブのこれからの道だろうと考えています。しかしながら、育成は時間がかかります。花が開くまで6、7年は必ずかかります。4年前から始めても今はまだ途中ですが、ここはブレずにやっていきたい。去年もそうですが、今年もトップの結果を求めながらも若手を育成していくという「育成と結果」を求め

る、今が一番苦しい時期かなと思っている所でございます。

4点目になります。昨年の最終戦で私が「勝負させてほしい」と申しましたが、「それは目算があったのか、なかったのなら詐欺じゃないか」と、多くのご質問をいただきました。

2012年、プレーオフで昇格した年は（経営危機後）J2・3年目で6位、平均観客数は9,721人でした。2013年のJ1は除きまして、去年2014年はJ2・4年目、最終的に7位で平均観客数は8,422人。1,300人減っています。これが20倍、20試合分が年間の落ち込みになります。私は去年の9月頃、このままずる行くことへの危機感是非常に持っていました。今回のご意見の中にも観客数減を危惧するご意見が多数ありました。先ほど申し上げました通り、若手選手の育成を行いながらもクラブ運営上はJ2の上位で昇格争いをしないことには運営はできないという思いがありました。そのため、利益を減らしてでも将来のトリニータのために今季が重要という事で、役員会や関係の方々に理解をしてもらい今年の利益を減らしてでも勝負を懸けていこうと思っておりました。具体的には、先ほど柳田が申し上げたように、昨年終盤の躍動感のある戦いをする為には、林や末吉などのレンタルの選手を延長または完全移籍、レンタル料や違約金がかかってもやっていきたいという覚悟をしていました。外国人も補強していこうと視野に入れておりました。

昨年のチーム人件費についても質問がありましたのでお答えすると、昨年の人件費が約3億円でございます。これは2014年のJ2で約12番目です。J2でもビッククラブがありますので2014年の平均は4億円です。今年は最終ではありませんが当初段階で3億3千万に落ち着きました。今年のJ2でも10位か9位くらいだと思います。最終的には林、末吉は取れませんでした。私個人としては私が責任者になった経営危機以降、最も充実したチーム編成になったのではと思っていました。

しかし、柳田から申し上げた通りの結果でございます。甘いと言われればそれまでですが、今シーズンはサッカーの難しさ、怖さを思い知らされております。いずれにしましても、観客減につきましては危機感を持っております。満塁ホームラン的な施策は正直ありませんが、今回貴重なご意見をいただきましたので、もし「こうしたい」というご意見があればホームゲームの時でも、私あるいは社員にお伝えいただければと思います。できる・できないは別として、私も皆さんと同じように観客減をそういう思いがあったからこそ、このままずる行くわけにはいかないという思いがあり、関係者の皆さんのご理解を得て利益を減らしてでもやって行きたいということが今季だったということです。

最後のご質問ですが、私と柳田の責任論についてです。私も柳田も社長、強化部長、あるいは監督という職に固執するつもりは毛頭ございません。

私の事で申し上げます、6年前に県庁を退職派遣という形でトリニータに来ました。経営危機によって社長に就任しましたが、生半可な気持ちでは出来ない職責というものは十分理解しておりました。トリニータを辞めて県に復帰するとかいう生半可な気持ちがあれば、楽な方に人間は逃げてしまいます。その思いがあったからこそ、「トリニータとこれから先、生きていくんだ」という覚悟をしたところがございます。その覚悟があったからこそ、トリニータの将来のためにベストまたはベターなものは何なのかと一番に考え、一番苦しくあるいは誰もやりたがらない、時には悪者呼ばわりされても、抜本的な経営再建、減資増資をはじめとしたクラブの改革、あるいは支援金の募集や債権者の皆さんとの協議をこの6年間やってきたつもりでございます。

一般論として聞いてもらいたいのですが、普通の会社であれば長い歴史の中でいい時もあれば必ず悪い時もあります。何をしても結果が出ない時があります。でもその上手くいかない時を凌いで乗り越えて行けば、必ずその経験はその会社の財産になり、会社は発展していきます。私はそう思っております。

しかしながら、うちは普通の会社ではございません。サッカー界に、そしてプロの世界に身を置く者として、どうしたらいいかということに対しては、シーズン終了後に考えていきたいと思います。柳田もそうですが、今は何が何でも残留のために全てを懸けていきたいと思います。

時間は押していますが、一言だけ言わせてください。ご質問等の中に、成績が悪くなると出迎えあるいはお見送りをせずに逃げ回っている、というご指摘もございました。

私が社長に就任以来、この5年間、(ホームゲーム) 会場での出迎えと、試合終了後に来賓の皆さんの見送りが終わった後には、勝っても負けても西口に行ってサポーターの皆さんのお見送りをしてきました。しかし、今シーズンの5月の連休後、監督問題が浮上してきました。メディアの皆さんが注目する中で、決まるまでは言えないようなデリケートなものでございます。試合直後は私もですがサポーターの皆さんも興奮状態になっています。そういう時のやり取りが、ネット上あるいはメディアさんの耳に入って(その様子を) すっぱ抜かれるということになると無用な混乱を招く恐れがあります。出迎えは今でもずっとやっておりますが、サポーターの皆さんも来るときは冷静です。帰る時、特に負けた時は私もそうですが興奮状態でイライラしています。そこでのやり取りは避けたい。非常にデリケートな監督問題などの時期でしたので、あえて5月の連休以降はお見送りをしていませんでした。決して逃げたりはしていないということを最後に申し上げて、私からのご回答とさせていただきます。以上でございます。

(後半、質疑応答へ続く)